



浄衣に身を包み葛川へと歩む回峰行者



発行所
比叡山時報社
〒577-0016 大津市坂本本町4220
郵便番号 520-0116
電話 077-578-0001
振替 00970-2-9732
宗教法人延暦寺事務所
定価 1部110円 年1200円

延暦寺広報

叡山講福聚教会
会報

年度会費 (3000円) 中
に会報 (比叡山時報)
購読料を含む。

令和5年比叡山から
発信する言葉
真の心を開き発す
真ん

ホームページから



ご購入は延暦寺

謙虚にひたすら行く

盛夏を迎える7月、近年特に梅雨の豪雨や厳しい暑さが交互に訪れ、災害や熱中症の注意が呼びかけられています。また3年越しのコロナ禍はようやく落ち着くようでもあり、コロナ後の将来へ向けての新たな節目を迎えています。

今年も大津市葛川坊村の明王院では、回峰行者たちが、建立大師相応和尚の修行にならって、5日間の参籠に入ります。修行者たちは、相応和尚の比良山中での修行体験を追体験するべく、永年受け継がれてきた行ないをひたすら務めています。そこでは改良や工夫は求められません。同じ結果が求められるので無く、その過程の同じ行いが必要なのです。

下阪本の東南寺にある石碑にこのような一文が刻まれています。

ひたすらに 謙虚に行ず ただ行ず

つゆいささかの

はからいもなく

これは、故葉上照澄大阿闍梨が千日回峰中に詠まれた歌です。「修行とは、結果に対してあれこれ思いはかることなく、謙虚にひたすら行くことである」と示されています。

なすべき行為にひたすら集中し打ち込むこと、それは一見、無謀で浅はかな行為を引き起こしかねません。しかし、修行の道は先師のたどった道であることから、不安を克服できるはず。また、先師の到達した場所も感じることができます。

行動の選択には、先のこと、結果の善し悪し、効率など考えなければならぬことがたくさんあります。しかし、先師に学び、受け継がれた修行、行ないを謙虚に実践する、これもまた、必要であると感じます。そして受け継いだものは、次に伝わっていくものであるはず。それは私たちが努めて伝えて行くべきものでもあります。

コロナ禍の後、様々な不安が巡ってきます。しかし日常の変わらぬ勤め、行ないの中に心の不安を克服する糸口があります。

